

■ BUNGAKUZA TSUSHIN 2025.5 Vol.789

文学座通信

- 本公演・地方公演『肝っ玉おっ母とその子供たち』
『文学座のプレヒト。をつくる』…………… 1～2
寺田路恵×西本由香×前田麻登
- 公演情報…………… 3
- アンナ・フィアリングは止まらない—山下純照… 4
- 幕間(まくあい) ——— 太田しづか…………… 5
- 本公演・地方公演『もうひとりのわたしへ』…………… 6～7
- アトリエ短信…………… 8

■ 文学座公演 この公演は「文学座アトリエで行う本公演」です

Mutter Courage und ihre Kinder 肝っ玉おっ母とその子供たち

作=ベルトルト・ブレヒト 訳=岩淵達治 上演台本・演出=西本由香

5月2日(金)～18日(日) 信濃町 文学座アトリエ

撮影:宮川舞子



稽古場より 寺田路恵と西本由香(右)

鼎談 「文学座のプレヒト」をつくる

演技部 寺田路恵×演出部 西本由香×企画事業部 前田麻登

前田 私は高校生のときに新国立劇場で『セツァンの善人』を観て、いつかブレヒトをやりたいと思いついてたんです。文学座でやるなら、研究所の同期である西本さんに演出してもらいたい。作品は『肝っ玉おっ母とその子供たち』がいい。それで『誰がアンナか』という話になったとき、私が「路恵さんがもう少し若ければ……」と悩んでたら、西本さんが「今でもいいと思う」って。

西本 早い段階で「路恵さんじゃない？」って言ったかもしれない(笑)。

前田 その瞬間、絵が頭に浮かんだので、路恵さんにお願ひしたら、やってくださるとおっしゃって。ちょうどアトリエ本公演の募集が始まったので、すぐ企画を出しました。

寺田 企画が通るかもわからないし、気軽に返事したのよ、私も(笑)。

前田 そうしたら、紆余曲折ありながらも決まってる。喜びとともに、ブレヒトという高い山を本当に登らなくてはいけないんだと、今も重圧がのしかかっています(笑)。

寺田 ひとつ聞いてもいい？ 自分自身の性格とか内面は、自分ではわかってるつもりだけど、他人から客観的にどう見えるのかはわからなくて。お二人が、アンナという役と私の接点をどこに感じて、私を選んでくれたのか。それを聞いたら、役を膨らませる上で役に立つかなと思ったの。

西本 シンプルに言うところ、強さですかね。何かあったときにパンと切り替えられる。それは生きていくための切り替えかもしれません、そういう気持ちのいい強さ。

寺田 切り替えられるようになったのは、だいぶ近年だけど(笑)。私自身は、非常に執着心が強く、言われたことは根深く持つて人間だと思ってるの。でも、ここ二十年くらいはね、すぐ忘れちゃう(笑)。

前田 私は、研究所の本科生のときに路恵さんの朗読の授業を受けたのが出会いで。

寺田 え、そうなの？ 覚えてない(笑)。

前田 (笑)。で、本科の卒業公演が坂口(芳貞)さん演出の『からゆきさん』だったんです。そのとき坂口さんが「女性が俳優を続ける上で、人生の大きな転換期は子どもを産むことなんだ。それを選択するかしないかは難しい問題だし、男から見ると大変なことだと思う。ただ僕は、子どもを産んでからすぐよくなった女優を一人知ってる」とおっしゃった。それが路恵さんだったんです。

寺田 初めて聞きました。

前田 坂口さんのその言葉がずっと残っていて。だから、少なくとも私にとっては、本当に「母」であることがアンナに必要な部分だと思ってたんですね。

寺田 私はね、西本さんが言うように、根っこは強いんです(笑)。ただ、正反対の弱さもある。内弁慶でね。劇団に入って、子どもを産んで休座するまでは『ガラスの動物園』のローラとか『華岡青洲の妻』の小陸とか……どこか内向きに引くような、しおらしい役が多くて(笑)。ずっとコンプレックスがあったの。だから『ガラスの動物園』はそこと重なった部分もあったんでしょ(笑)。

西本 観たかったですね。路恵さんのローラ。

寺田 でしょう？(笑) それが結婚して、子どもを年子で二人産んで育てるときに「この子たちは自分じゃ何もできない。育てるのは私だ」って思ったの。そこから、今まで表面には見えなかった自



観劇体験をプレゼント！ 「ギフトチケット」について

観劇を希望していても、様々な事情で演劇にふれる機会の少ないご家庭に文学座の観劇体験をプレゼントすることのできる「ギフトチケット」(1口3千円)となります。文学座が提携する子ども支援団体を通じた、今年2年目の取り組みです。ギフトチケットご協力の旨を公演チケットお申込はがきにお書き添えいただき(またはお電話)、下記口座にご送金ください。

三菱UFJ銀行 四谷支店 普通 4360713
(株)文学座 切符代金口

◇お問い合わせ TEL03・3351・7265
(10:00～18:00 / 土・日・祝を除く)

※詳細は公式HPにて

◇ご予約・受付開始 5月21日(水)
20時から(WEBのみとなります)



◇信濃町 文学座新モリヤビル1階稽古場
◇入場料 1,000円
(要予約・全席指定・当日精算・消費税込)

◇6月5日(木) 18時30分

6日(金) 13時/18時30分

7日(土) 12時/17時30分

8日(日) 12時

麓雛多

◇出演 石岡龍磨、小笠原義為、下中勇樹、松尾啓希、一乗瑠来、井上留菜、大木惟吏杏、櫻井咲楽、鈴木玲唯、菜、瀬崎尚子、萩原すみれ、舩谷マイア、矢島美藍、雨宮遼、伊藤陸、君島太陽、須崎陽道、孫太悟、徳永壮一郎、松山昇平、岡田和己、野村侑加、

アトリエ短信

■附属演劇研究所研修科第一回発表会

篠原久美子 作 中野志朗 演出

『ゴルゴダメール』

■シンポジウム「高校生を巡る諸課題と演劇の活用効果」報告

3月22日、ベルサール新宿グラントコンファレンスセンターにて、シンポジウム「高校生を巡る諸課題と演劇の活用効果」実践例から考える」(日本芸術文化振興会、日本劇団協議会)が開催され、岐阜県教育委員会教育長の堀貴雄氏と共に演技部の瀬戸口郁が登壇しました。

2008年度に文学座は、可児市文化創造センターと地域拠点事業を始め、2012年度以降、岐阜県内の高校で演劇ワークショップ等を実施してきました。2018年3月には、岐阜県教育委員会と連携協定を締結。県立高校の一年生を対象に、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を目的とした取組を展開しています。高校での実践について解説した瀬戸口は「岐阜県の演劇の授業が現在に至るまでに、教員、県教委の方々と意見交換をして、課題を共有してきました。このプロジェクトに携わる大人が真摯にコミュニケーションをとって授業を進めていくことが大切」と述べました。「アートによる社会包摂」は時代の要請という考えのもと、文学座が事業を続ける強い意思表明の言葉で報告を締めくくりました。

■「華岡青洲の妻」関連シンポジウムのご案内

「華岡青洲の妻」の継承と新生——松竹と文学座の競演」を開催します(入場無料・要予約)。

◇6月15日(日) 14時/16時

◇立教大学 池袋キャンパス14号館 D301教室

◇鶴山仁(演出部)、小野洋子(演技部)、

波乃久里子(劇団新派)、齋藤雅文(劇団新派)、

金子明雄(立教大学)、後藤隆基(文芸編集室)

◇お申し込み・お問い合わせ

立教大学大衆文化研究センター

TEL 03・3985・4641 (電話対応は月・水・金)

✉ rampo@rikkyo.ac.jp

主催 立教大学大衆文化研究センター / 協力 松竹株式会社、文学座

■入社

4月1日付で映画放送部に小笠原沙莉、高橋昇太郎、三橋凜子が入社しました。4月25日付で企画事業部に友谷達之が復職しました。



[お申込みフォーム]

出演情報

◎追加情報は文学座HPにて

★乃村美絵、鈴木結里：『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出) 2024年7月～TBS赤坂ACTシアター

★名越志保：『リンス・リピートそして、再び繰り返す』(ドミニカ・フェロー脚本、浦辺千鶴訳、稲葉賀恵 演出) 4/17～5/6 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA*、5/10～11 京都劇場*

*紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA 公演は500円引き、京都劇場公演は1,000円引きにて、共に文学座支持会、パートナーズ倶楽部会員様の優待販売があります。

詳細は、東京公演=ホリプロステージ
TEL 03-3490-4949 (11:00～18:00 / 土日祝休)

京都公演=キョードーインフォメーション
TEL 0570-200-888 (12:00～17:00 / 土日祝休)

★廣田高志：ミュージカル『屋根の上のヴァイオリン弾き』(ジョセフ・スタイン台本、シェルドン・ハーニック作詞、ジェローム・ロビンス オリジナルプロダクション演出、倉橋健訳、滝弘太郎・若谷和子訳詞、寺崎秀臣日本版演出) 5/3・4 上野学園ホール(広島)、5/9～18 博多座(福岡)、5/24・25 名取市文化会館(宮城)、5/31・6/1 ウェスタ川越(埼玉)

★原康義、塩田朋子、常住富大、音道あいり、河野顕斗：ミュージカル『二都物語』(ジル・サントリエロ 脚本・作詞、鶴山仁訳・演出) 5/7～31 明治座ほか

★たかお鷹：『マクベス』(W.シェイクスピア作、小田島雄志訳、吉田鋼太郎演出・

上演台本) 5/8～25 彩の国さいたま芸術劇場、5/30～6/1 仙台銀行ホール イズミティ 21 ほか

★石橋徹郎：『祈りの幕が下りる時』(東野圭吾原作、成井豊脚本・演出) 5/17～25 サンシャイン劇場、5/31・6/1 サンケイホールブリーゼ(大阪)

★渋谷はるか：『マライア・マーティンの物語』(ベス・フリントオフ作、小田島則子訳、寺十吾 演出) 5/17～25 サンモールスタジオ(新宿)

★sara：ミュージカル『once』(エンダ・ウォルシュ 脚本、グレン・ハンサード & マルケタ・イルグロヴァ 音楽・歌詞、ジョン・カーニー原作(映画「ONCE ダブリンの街角で」脚本・監督)、一川華 訳・訳詞、稲葉賀恵 演出) 2025年9月 日生劇場 ほか
※先行予約あり。詳細はHPにて。